

<概要版>

低炭素な暮らしと まちづくりに向けて

新宿区地球温暖化対策指針（素案）

新宿区では、新宿区地球温暖化対策指針（素案）を策定し、そのポイントを分かりやすく示すため、本編を簡易に取りまとめた概要版を作成しました。

「低炭素な暮らしとまちづくり」とは、社会や生活基盤を省エネ型にして、CO₂排出量を減らしていくことを意味しています。

平成 22 年 10 月

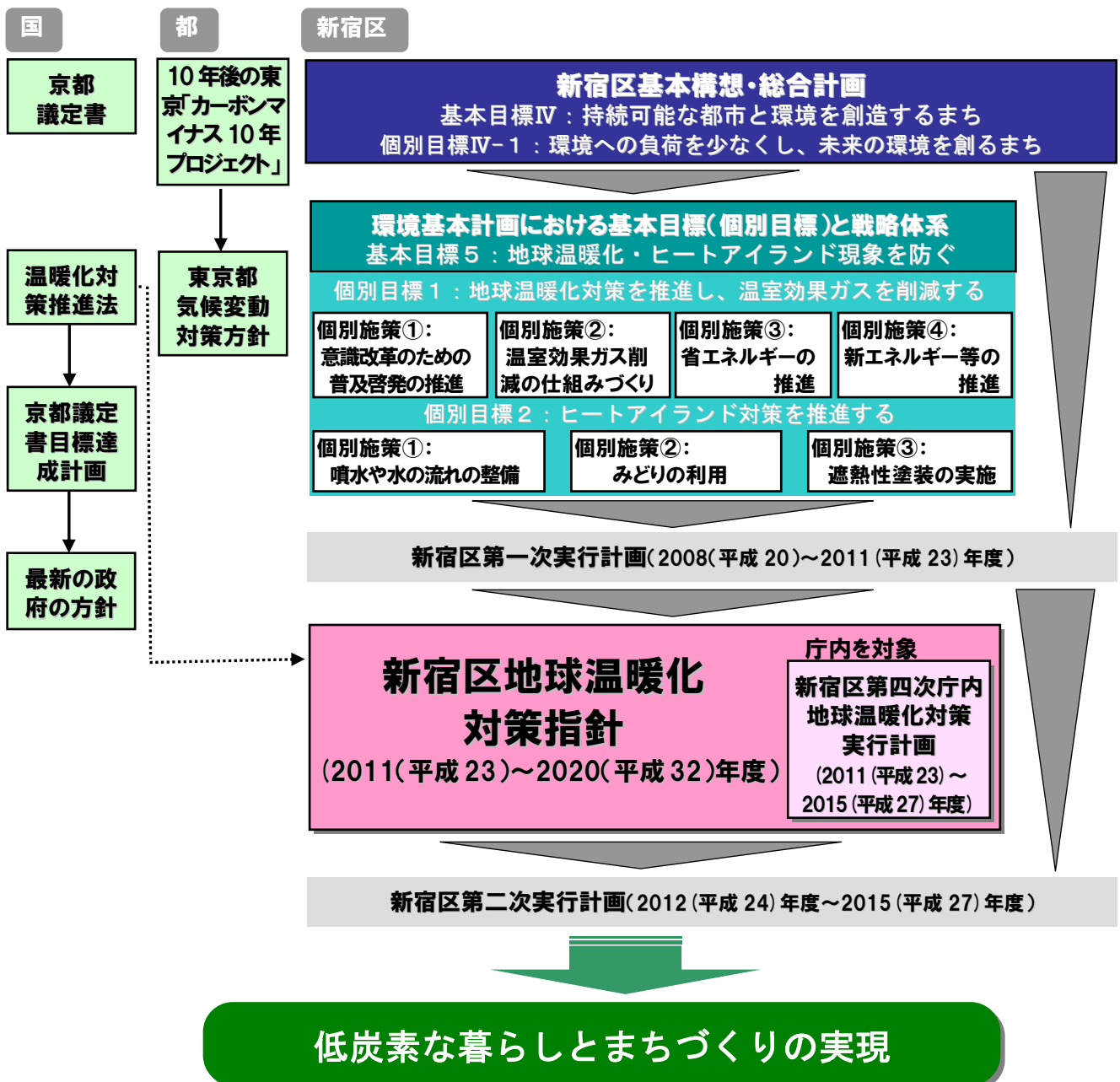
新 宿 区

指針の策定目的と位置づけ

新宿区では、2005（平成 17）年 2 月の京都議定書発効、同年 4 月の国による「京都議定書目標達成計画」の決定を受けて、2006（平成 18）年 2 月に「新宿区省エネルギー環境指針」を策定し、京都議定書の目標を踏まえた区内の二酸化炭素（以下、「CO₂」という。）排出量の削減目標を定め、新宿区の地球温暖化対策の展望を示しました。

その後、「新宿区環境基本計画」を改定し、区の CO₂ 削減目標達成に向けて地球温暖化対策を強化し、さらに、新宿区第一次実行計画事業においては、区民・事業者の省エネルギーの取組みを推進・支援する様々な施策の実施とともに、区自らも率先して CO₂ の排出削減に取組み、目標達成を目指しています。

この新宿区地球温暖化対策指針では、区内の排出量の現況分析を行い、将来の排出量を予測したうえで、国や都の目標・動向及び新宿区の中長期的なまちの展望を踏まえた CO₂ 排出量の削減、ヒートアイランド現象の緩和に向けた目標を示しました。この指針の目的は、区内に暮らし、活動している全ての方々が取組むことができる仕組みを示すことにより、「低炭素な暮らしとまちづくり」に向けた方向性を提示することです。



図：指針の位置づけ

新宿区の特徴

気候 年平均気温は上昇傾向であり、真夏日日数や熱帯夜日数は増加傾向にあります。

業務ビル、住宅及びアスファルト等の人工被覆面からの熱負荷が大きく、ヒートアイランドが形成されています。

土地利用や建築物 集合住宅や事務所建築物が50%以上を占めており、中でも新宿駅西口の高層ビル群を始めとした4階以上の中高層建築物の割合が高くなっています。

一方、区内の新宿御苑の緑地は真夏でも周囲より気温が低く、緑地内の冷気が周辺市街地ににじみだすことで、ヒートアイランド現象を緩和する効果が確認されています。

人口・世帯 人口・世帯数ともに2000(平成12)年以降は増加傾向にあります。年齢別にみると、高齢世代は全国傾向と同様に増加しています。

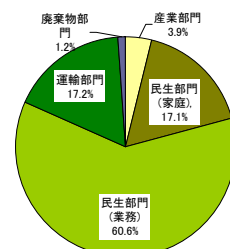
また、単身世帯や外国人登録人口が多く、昼間人口が夜間人口の約2.5倍あり日中の業務活動が活発なことも特徴です。

産業構造 産業分類別にみると、第三次産業が90%以上を占めています。

区内には約3万5千の事業所があり、従業員数10人未満の小規模事業所が約70%を占めています。

CO₂ 排出量 区内のCO₂排出量は約310万tであり、1990(平成2)年と比べると約26%増加しています。

部門別にみると、産業部門の割合が高い国と比べて、民生業務部門の排出量が多いのが特徴です。家庭部門も含めた民生部門だけで、全体の77.7%と非常に高い割合を占めています。



部門別のCO₂排出量
(2007（平成19）年度)

新宿区の取組み 区民に向けた取組みでは、新宿工コ隊やみどりのカーテン、事業者に向けた取組みでは、省エネルギー診断や省エネ技術研修セミナーなどを行っています。区の取組みでは、区有施設への太陽光発電設備の導入、環境学習情報センター事業など、様々な独自の取組みを行っています。

新宿区の目標

新宿区全体のCO₂排出量削減の目標を、以下のように定めます。

短期的な目標（将来目標を達成するための当面の目標）として、

2015（平成27）年度のCO₂排出量を

1990（平成2）年度と **同水準** とすることを目標とします。（2007（平成19）年度比 **21%減**）

中期的な目標（10年後を見据えた目標）として、

2020（平成32）年度のCO₂排出量を

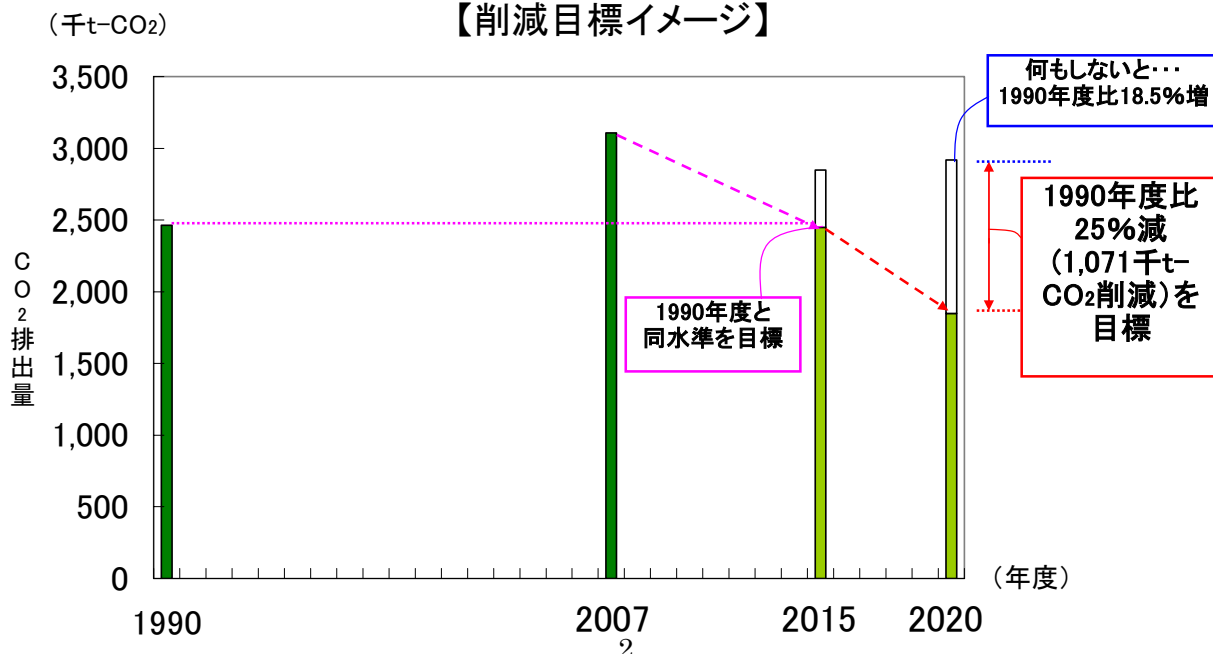
1990（平成2）年度比で **25%減** を目標とします。（2007（平成19）年度比 **41%減**）

長期的な目標（理想的な将来ビジョン）として、

2050（平成62）年度のCO₂排出量を

1990（平成2）年度比で **50%減** を目標とします。）

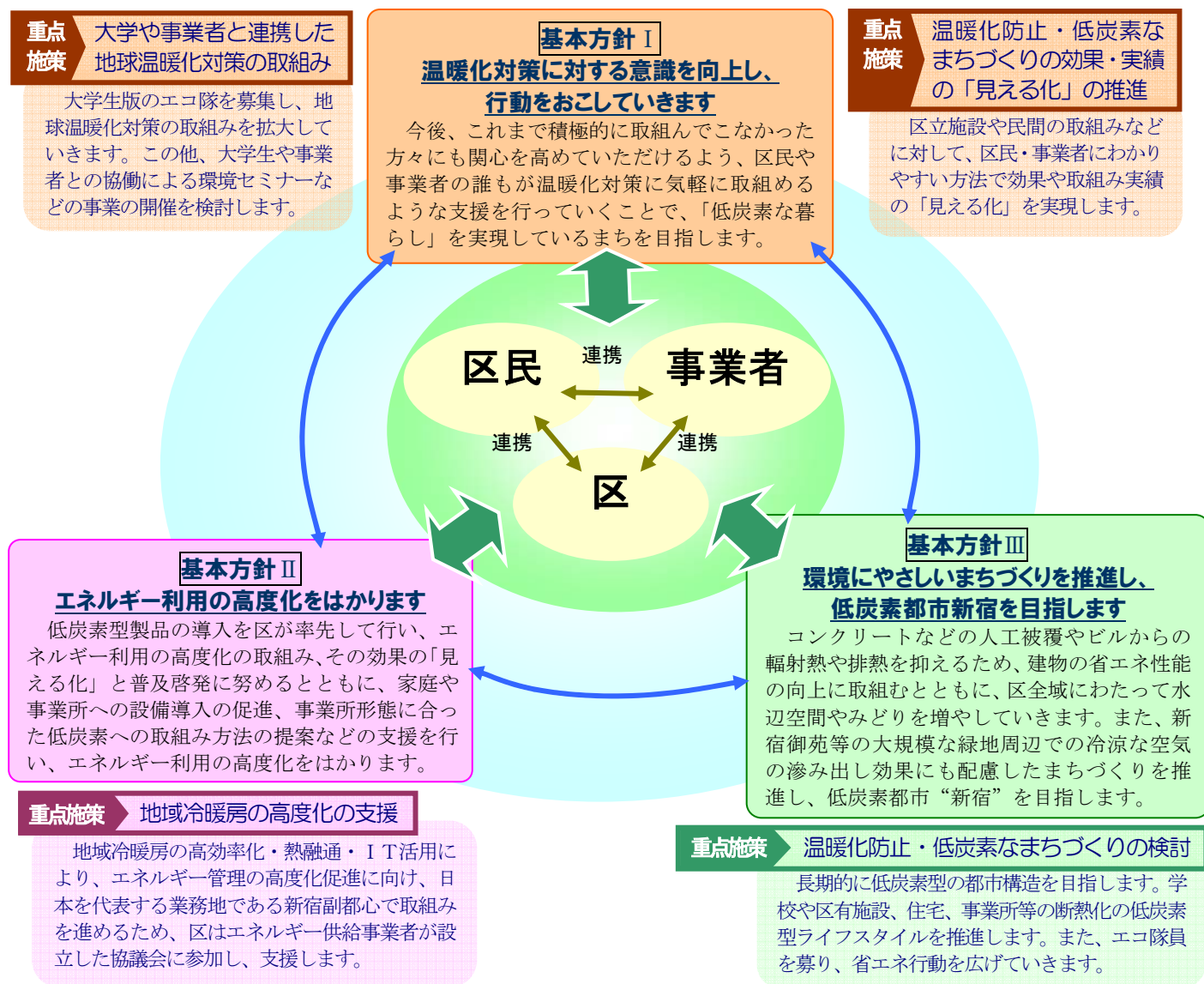
【削減目標イメージ】



基本方針と施策体系

新宿区が地球温暖化対策の先進的な都市となることを目標に、CO₂削減のための3つの基本方針を以下のように設定します。

低炭素な暮らしとまちづくりの実現



低炭素まちづくり実現に向けたトータルイメージ

区民の取組み

区民一人ひとりが低炭素な暮らしを実践することで、地球温暖化対策だけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献でき、快適な暮らしを目指します。2020年の目標は、区民一人1日あたり2.1kg-CO₂の削減です。以下にこの目標を達成するための取組みの一例を示します。

(※削減効果の計算は、ECCJ『家庭の省エネ大辞典』、京都議定書目標達成計画参考資料、地球温暖化白書などを参考に行った一般的な目安であり、設備の種類や使用状況によって値が異なります。)

区民の取組み例と一人あたりの削減効果

複数人世帯では、間隔をあけずに入浴する。



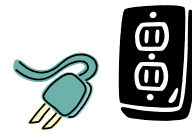
年間 87.0kg-CO₂ 削減
年間 6,000 円節約

電気カーペットの設定温度は低め(「中」以下)にする。



年間 69.4kg-CO₂ 削減
年間 4,090 円節約

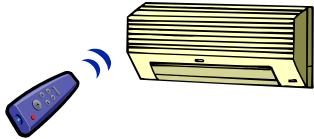
電化製品は長時間使用しないときはプラグを抜く。



※計算値は
電気ポット

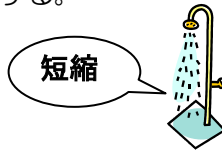
年間 40.1kg-CO₂ 削減
年間 2,360 円節約

夏の冷房時は28℃、冬の暖房時は20℃を目安に設定する。



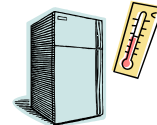
年間 31.1kg-CO₂ 削減
年間 1,840 円節約

シャワーの使用時間を1分短縮する。



年間 29.1kg-CO₂ 削減
年間 3,000 円節約

冷蔵庫の設定温度は、冷蔵室1～5℃、野菜室3～7℃に設定する。



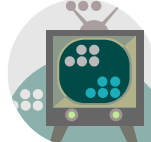
年間 23.0kg-CO₂ 削減
年間 1,360 円節約

食器を洗うときはガス給湯器は低温(38度以下)に設定する。



年間 20.0kg-CO₂ 削減
年間 1,380 円節約

テレビの画面は明るすぎないようにする。



年間 11.2kg-CO₂ 削減
年間 660 円節約

週2回往復8kmの車の運転をやめ、公共交通や自転車を利用する。



年間 11.2kg-CO₂ 削減
年間 660 円節約

高効率電気ポットに取り替える。



年間 140kg-CO₂ 削減
年間 8,070 円節約

高効率食器洗い機を設置する。



年間 69kg-CO₂ 削減
年間 9,610 円節約

白熱電球から電球型蛍光灯やLEDランプに取り替える。



※計算値は
LED
ランプ

年間 50kg-CO₂ 削減
年間 2,960 円節約

その他の取組み例

- ・ エアコンのフィルターは月に1～2回清掃する → 年間 11.9kg-CO₂ 削減、年間 700 円節約
- ・ レジ袋、紙袋の包装、割り箸等を断る → 年間 3.7kg-CO₂ 削減
- ・ 洗濯物はまとめて洗う(容量の8割を目安とする) → 年間 2.2kg-CO₂ 削減、年間 3,950 円節約
- ・ 節水型シャワーヘッドへ交換する → 年間 37kg-CO₂ 削減、年間 4,490 円節約 など

事業者の取組み

事業所の従業員一人ひとりが低炭素な行動を心がけることで、地球温暖化対策だけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献でき、快適な生活を目指します。2020年の目標では、一事業所全体で1日あたり28.8t-CO₂(従業員10～500人程度の中小規模事業所の場合)の削減を目指します。以下にこの目標を達成するための取組みの一例を示します。

(※削減効果の計算は、ECCJ資料、環境省資料などを参考に行った一般的な目安であり、設備の種類や使用状況によって値が異なります。)

事業所と従業員の取組み例と一件あたりの削減効果

事業所の取組み

1日2袋のゴミ袋を分別し、リサイクルして一袋に減らす。



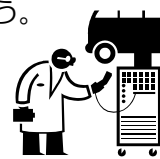
年間3,978kg-CO₂削減
(45Lゴミ袋の場合)
年間・円節約

看板や自動販売機の点灯時間を見直す。



年間1,483kg-CO₂削減
年間88,900円節約

省エネ診断にもとづく設備管理を行う。



年間2,380kg-CO₂削減
(排出量34t-CO₂の場合)
年間103,290円節約

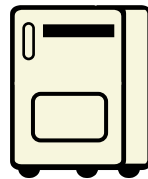
太陽光発電設備や太陽熱利用システムを導入する。



※計算値は
太陽光発電設備

年間1,100kg-CO₂削減
年間133,000円節約

高効率給湯器を導入する。



年間240kg-CO₂削減
年間14,000円節約

省エネ型エアコンに取り替える。



年間90.4kg-CO₂削減
年間5,420円節約

従業員の取組み

※出勤日数260日として計算

使用していない部屋の電気は消す。



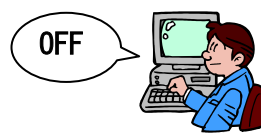
年間97.4kg-CO₂削減
年間5,490円節約

温水洗浄便座は使わないときはフタを閉める。



年間13.0kg-CO₂削減
年間770円節約

パソコンは、使わないときは電源を切る。



年間11.8kg-CO₂削減
年間690円節約

運転時は、ふんわりアクセルスタートを実践する。



年間194kg-CO₂削減
年間10,030円節約

1日5分ずつ運転中のアイドリングストップを実践する。



年間40.2kg-CO₂削減
年間2,080円節約

クールビズ・ウォームビズに心がける。



年間31.1kg-CO₂削減
年間1,840円節約

その他の取組み例

・業務用燃料電池を導入する → 年間1,500kg-CO₂削減、年間60,000円節約など

区の実施

区では、地球温暖化対策施策として、新エネルギーや省エネルギー機器導入に対する補助などの様々な支援を行っています。

さらに、一事業者としても、区内を対象とした「新宿区第四次区内地球温暖化対策実行計画」を策定し、率先した取り組みを行い、具体的な温暖化対策の行動を実践していきます。今後も、環境教育の推進や、区内における取り組みの「見える化」を促進していきます。以下にこの目標を達成するための取り組みの一例を示します。

(※削減効果の計算は、環境省資料などを参考にしています。)

区の補助・支援、取り組みの一部と削減効果

区の補助・支援

個人・住宅用の新エネルギー・省エネルギー機器（太陽光発電システム、高効率給湯器など）の導入に際する設置・施行費用の一部補助。



事業者用の新エネルギー・省エネルギー機器（太陽光発電システム）の導入に際する設置費用の一部補助。



ISO14001 やエコアクション等の環境マネジメントシステム(EMS)規格を認証取得する際の取得費用の一部助成。



区内事業所を対象とした、省エネルギー診断の無料サービス。



区の実施

区内で省エネ行動を実践し、取り組み例を提示する。ISO14001 等への取り組みを行う。



年間 1,470t-CO₂削減

ライトダウンキャンペーン等のイベントを開催し、区有施設は率先して参加する。



ライトダウンキャンペーンのステッカー

年間 2.5 t-CO₂削減

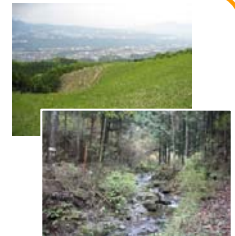
省エネ設備の導入・区有施設の省エネ化、再生可能エネルギーや未利用エネルギーの導入など、エネルギー利用の高度化をはかる。



牛込第三中学校 屋上

年間 4,800t-CO₂削減

伊那市(長野県)等と連携したカーボンオフセット事業を推進し、植林・下刈りツアーなどを開催する。



新宿の森

年間 3,000t-CO₂削減

廃棄物発電による電力やグリーン電力を購入する。



年間 370 t-CO₂削減

屋上緑化など、ヒートアイランド対策と連動した低炭素まちづくりを進める。



新宿区役所本庁舎 屋上

年間 540t-CO₂削減

区有施設等の地球温暖化対策の取組み例（下図）です。今後も更なる取組みを進めていきます。

